

1 自己評価及び外部評価結果【ユニットB】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371501020		
法人名	株式会社 在宅看護センター愛		
事業所名	グループハウス愛(Bユニット)		
所在地	名古屋市名東区八前二丁目1820番地		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371501020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和5年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念(安全・安楽・安心)をできる限り実践し、利用者本位のサービスを目指している。 ・全ての入居様の健康面に配慮し、安定した健康状態で過ごしていただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>交通の便が良い丘陵地のスーパーや銀行、住宅などが点在する中に事業所が位置している。鉄筋3階建てで、訪問看護ステーションと訪問介護事業所が併設されている。和風造りの門や玄関、木の温もりと落ち着きを感じられる和の室内は、住み心地の良い生活の場となっている。職員は、「安全・安楽・安心」を介護全般の三原則として、入居者が自分らしさや誇りなどを大切にしたい暮らしができるようにそっと寄り添う介護を目指し、生活のパートナーとして日々のケアに心がけている。地域の方と一緒に認知症理解の講座を開いたり、地域の様々な資源を利用したりして地域に溶け込んだ事業所として滞っていた事業の再開を検討している。また、日々の散歩や季節の花見、知人や友人との語らい、絵画や書など趣味の作品作り、フラダンスなどのボランティアによる催しなど今までの生活経験や楽しみの継続支援に徐々に心がけ、入居者が主体的になれるように努めている。調理済の食材をユニットごとに盛り付けや一味、一手間の工夫をし手作り感を添えて提供し、皆で美味しくいただき元気の源としている。入居者は、職員に支えられ自分がしてきたことや自分のできることを自分のペースで行い、自分らしくゆったりと過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔Bユニット〕

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の安全・安楽・安心を玄関やスタッフルームに掲示し、意識付けを行っている。	事業所理念を玄関やスタッフルームに掲示している。「安全・安楽・安心」を介護全般の三原則として、職員一人ひとりが日々の対応を振り返り、できないことを抽出し自分の目標を設定して実践に役立てている。毎日の申し送り時や会議、研修等で再確認し行動の指針として理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの感染予防の為、現在自粛している。	町内会に事業所と入居者が加入し地域に貢献しているが、今年も地域行事や清掃活動の参加やフラダンスなどのボランティアの受け入れは自粛しており、状況を確認しながら少しずつ再開していく方向にある。近所の散歩は人混みを避け、リハビリを兼ねながら継続している。地域の商店や飲食店とは、お寿司やお弁当などを注文する中で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防の為、講演会などは自粛中であるが、ホームページにて公表を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6月、8月に会議を開催した。検討内容としては施設面会方法や災害時の連携や対応方法等について検討を行った。	家族代表、民生委員、学識経験者、いきいき支援センター職員の参加により2か月に1回、状況に応じて書面開催や対面での開催をしている。書面の場合は個々に電話などで意見を聴取している。議事録には意見や議題の内容をわかり易く記載し参加者に届けている。家族や委員からは内容が可視化され高評を得ている。参加者からの意見や提案は職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。会議録は家族には配布をしていないが、面会時に口頭で伝えたり誰も見られるようファイルして置いてある。	運営推進会議の意義や目的、協議内容を周知する機会として会議録を家族には配布をしたり、家族に届けている「愛だより」などで周知し、家族代表の他にも関心のある家族の参加が得られるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	セミナーや研修への参加は自粛中であるが、ネットの動画や案内、リモートの利用などにより学びに努めている。	担当者とは電話やファクス、メールで綿密な連絡を取り合い、入居者の状況や施設の空き状況の他にも情報やアドバイスを得ている。担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務などで出掛け、活動報告やサービスの内容などを伝え良好な協力関係を築いている。行政からの研修等の案内や情報の提供は行っているが、動画やリモートによる研修を利用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはマニュアルや資料回覧研修などを通して理解の共有を図っている。玄関の施錠に関しては事故防止の観点より、ご家族に説明し了承を得ている。	3か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し現状の把握や見直し等について話し合い、職員には申し送り等で周知している。個々の人格や自由を尊重し、身体拘束をしないケアと言葉の拘束や心の拘束の排除に取り組んでいる。職員同士が声を掛け合いストレスの無い心の状態を保ち、入居者に穏やかな気持ちで接するよう職員の共通認識を図っている。防犯上玄関は施錠している。安全の確保のため離床センサーを使用している方には家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については施設内にマニュアルの設置を行っている。また社内回覧研修により定期的に学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	社内回覧研修により情報取得を行っている。実際に後見制度を利用している方もおり、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明を行うとともに、ご家族等に疑問点や不明な点をお聞きし、しっかりと説明を行っており、それ以降も何かあれば随時説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限り、電話や来所時に、ご意見や何か問題は無いかな、お聞きする様に務めております。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からはアンケートで意見を聴取したり、電話や面会時や着替えなど届け物の受け渡しの折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。また、日頃の様子や写真を掲載した「愛だより」を発行して家族に情報を提供したり安心感を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境も整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が各職員から話しを聞く機会を設けている。また問題等あればその都度、話しを聞き代表者に相談する様にしている。	日常の業務の中や申し送り時、月1回のカンファレンス等で提案や要望などを聞いている。管理者は職員の就労状況を見ながらアンケートを実施したり職員の意向などをユニットリーダーから聴くなどして職員の意向を把握している。また、職員の意見や要望を基に定期的に個人面談をする機会を設け職場環境の改善や運営に反映させるように努めている。今後、人事評価制度も導入する予定としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足により厳しい職場環境が続いているが、賃金や休日、休憩、働きやすい環境等、できる範囲で努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナの為、研修の参加は難しいが、人員不足により、希望者全員の参加や確実な参加が難しい場合もあり、しっかりと対応ができていない状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	面談や申し送り、またその都度問題があれば、吸い上げて代表者に相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人及びご家族からの聞き取りやアセスメントをしっかりと行っている。また入所後も気づいた事はスタッフどうしで申し送り等、情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後はご家族との連携を密にして、問題や不安な事柄に対応できるようにしており、頻繁にご家族にご報告と説明をするように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、必要なサービスを検討し、当施設で難しいサービスは代替案や他の施設などの状況も含め丁寧な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の能力や興味などにより、役割をこなして頂いている。少しでも意欲的な生活ができる関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけご家族にご本人の状況を伝える様に電話や書面の郵送を行っており、何か本人から意見等あれば直ぐに対応できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の表情や態度などにも注意して、話しをお聞きする様にしており、ご家族にも本人の大切だった物などお聞きするなどし、支援を行っている。	アセスメントシートで生活歴や大切にしてきた人や場所、物事を把握し、継続できるように努めている。現在も引き続きできる事の制限はあるが日常の家事仕事や身だしなみ、化粧など、今まで培った経験と得意分野を楽しみながら日常に活かす支援をしている。家族や友人と年賀状や手紙のやり取りや電話を活用し関係を維持している。また出掛けるのが困難な場合は、入居者の思いに寄り添いそれぞれのエピソードに沿って会話を促したり懐かしい動画を見たり歌うたなどで古の風情などを共有するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の趣味趣向に合わせた話題で会話を行ったり、特異なレクなどを行ってもらう様に努めている。またトラブルが発生した場合は、直ぐに職員が介入して対応を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればご家族にもご連絡し話しをお聞きしたり、親身になって対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから本人の表情や態度など、少しでも違和感などあれば、直ぐに声かけや傾聴し、意向の把握に努めている。	日常の入居者との関わりやさりげない会話の中で傾聴の姿勢を基本とし、その方の理解度に合わせて食後のお茶の時間や入浴時、夜間のゆっくりとした時間の中で思いや希望を聞くようにしている。聞き取ったことや感じ取ったことは連絡ノートや介護記録を活用し職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、うなづきや表情の変化に気付き丁寧に対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族からもお聞きし、できる範囲で生活上の改善に努めている。困難な場合は傾聴し、説明し納得してもらう様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、水分量、排泄、服薬等の状態の把握に努めており、問題あれば職員間で情報共有を行い、改善に努めている(主治医への相談含む)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族からは電話で要望等をお聞きし、計画に反映するように努めている。	日常の様子を記載した行動記録や意見交換ノートを基に日常的に職員間で話し合い、評価をして情報を共有している。それを基に担当職員が毎月モニタリングを行っている。6か月ごとのケアプランの更新時には評価を基に計画作成者が医師や看護師など関係者の意見や家族の意向等踏まえながら問題や課題について検討し現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り等で職員間の共有は常に行っており、改善の必要性があれば早急に対応を図るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望希望があれば可能な範囲で対応する様に図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科／眼科／理美容などのサービスの利用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の件は本人及びご家族からの希望により決めて頂いている。また誰でも良いとの事であれば施設の訪問医を紹介している。緊急時の時も直ぐに連絡し、指示を仰いでいる。	入居時にかかりつけ医か提携医かを聞いているが、ほとんど提携医を利用している。内科や精神科は月2回の往診がある。歯科・皮膚科・眼科も希望により提携医による往診が受けられる。また、耳鼻科は年1回の検診を行っている。はち丸ネットワークを利用し多職種との連携や訪問看護師により24時間連絡可能な体制を整え、健康管理に努めている。身体状況に変化があった場合や緊急時には医師や看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、施設訪問にて見てもらい、特に不安のある入居者があれば、直ぐに連絡をして助言及び見てもらう様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が情報提供書類をFAXで送り、病院からの対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の説明はもちろん、ご家族とも問題があれば直ぐに話し合いを行い、できる限りご家族等の意向に沿えるよう、努めている(実際には、本人が意思の表明が困難な事が多いので、ご家族の意向になる事が多いです)	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、医師や看護師と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。看取りの実績もあり、看取りのマニュアルを整備し、職員のメンタルケアの研修や日々のケアの大切さも説明しながら事業所全体で取り組んでいる。家族も共に看取る体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ここ数年は新型コロナ感染問題により、研修や集まった訓練ができていないが、社内回覧研修等の資料やマニュアルにて対応している。よって十分とはいえない状況と考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年度4回の避難訓練を実施し、その内1回は消防署員と一緒にレクチャーを受けながら行っている。	年4回の避難訓練の内、1回は消防署員立会いの下、火災を想定した昼間及び夜間帯の職員体制で実施している。水消火器による初期消火訓練や消防署員から指導や助言を受け、避難経路の確認や避難誘導について話し合いを重ねている。BCP計画を策定し、自然災害や新型コロナなどの感染症対策等内容を随時見直している。備蓄品は、3日分の水や食料、ガスボンベなどの備品も確保されている。福祉避難所として市と提携を結び災害時には事業所を開放し被災者の受け入れも可能としている。	毎年消防職員の指導の下、様々な災害を想定した訓練が行われ、指導や助言も受けているが、夜間専属の職員の参加が得られていないことから、夜間帯の職員の参加しやすい時間帯での訓練も検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ声かけや傾聴する事を心がけており、まずは本人の思いや意向を尊重するよう、努めている。	人生の先輩として尊敬し、個々の生活の背景やスタイルを守りながら誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合い、不愉快な思いをしないケアに努めている。申し送り時やカンファレンスなどの議題として取り上げ、全職員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの要望や思いを丁寧にお聞きし、本人の体調や状態に無理のない範囲で叶えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の基本的な時間や流れは決められているが、本人の健康状態や精神状態、気分等により、食事時間や入浴時間、起床時間等、適宜調整を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服装や装飾品、髪型等の要望があれば、希望に沿えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルスの観点により盛り付け等、支障があると思われる行為は職員が行っている。盛り付け方法や料理の説明などしながら、おいしく食べてもらう様に努めている。	業者の献立で季節の行事にも配慮された調理済の食材が届けられる。各ユニットごとにメニューを変更し、手作りしたりアレンジするなど工夫をして提供している。ご飯とお味噌汁は職員と共に準備したり、後片付けの手伝いなど、その人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。また、入居者の希望を聞いて寿司や鰻などの出前を取り食事に楽しみが持てるよう工夫している。個々のペースに合わせた食事時間を整え、食への関心を引き出せるよう声掛けをしている。誕生日にはホールケーキを用意してお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食に関してはチェック票及び申し送り等で、全職員が把握できるようにしており、体調や嚥下状態により飲食の量やトロミ剤を使用するなど、適宜対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後等、必ず実施している(入歯の洗浄含む)。また訪問歯科により治療等の処置が必要な場合は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック票及び申し送り等で排泄に関する情報共有が行われている。また下剤を服用した時にはトイレ誘導して排泄を促している。	トイレでの排泄を目指し排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握して、さりげない声掛けやタイミングを工夫し、その人に合わせたトイレ誘導に努めている。時間や状況、状態に合わせてパットの種類を使い分け、不快のない生活や夜間の睡眠を妨げないよう配慮している。下専用の蒸しタオルを利用して清潔を保ち尿路感染症などに配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	対応方法としては、体操を日課(できる限り体を動かす)、腹部マッサージ、乳製品などで対応している。全く効果がない場合は主治医に相談し、服薬等のお願いをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ各自の希望に沿うよう順番を考えているが、本人の状態や職員の勤務状況によって、希望通りにできない場合もある。	入浴は週2回を基本としているが、入浴の希望があれば支援をしている。お湯や足ふきマットは毎回交換し清潔に保っている。できる限り湯船に浸かれるよう支援し、シャワー浴の場合は足浴を併用して身体を温めている。冬季は脱衣室の暖房と浴室の床暖を利用しヒートショックに配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯を利用し入浴を楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の健康状態やその日の体調等(睡眠状況含む)により、静養時間等、適宜とるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルがあり、いつでも職員が確認できるようにしている、また服薬に変更があれば申し送り等で、職員間の情報共有を行っている。問題あれば直ぐに主治医に連絡を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の能力に合わせた家事等のお手伝いをして頂いている。またできないレクリエーションなどは、個別に他のレクをしてもらうなどして、みんなと過ごす時間を作る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの観点により、外出は自粛中であるが、屋上での日光浴などで気分転換に努めている。。	施設周辺の散歩を再開し、お天気や入居者の体調等を考慮しながら散歩に出掛けられるよう努めている。事業所近隣には本屋やスーパー、薬局、ファミレスなど気軽に買い物や馴染みの飲食店もある環境ではあるが、利用の再開は職員と話し合いながら検討している。日々の取り組みとして広い事業所内の散歩、屋上での日光浴やお茶会を催したりして気分転換を図るなど、その方の状態に応じた外出支援の工夫をしている。家族の協力を得ながらドライブや自宅に帰ったり、季節の花見などの外出支援を順次再開できるように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理能力にもよるが、他の人にお金を渡したり、失くしたり等の問題が多い為、ご家族様からの希望で、施設で管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の都合により対応を行っている。また手紙やメモ、年賀状などできる方には支援してご家族にも喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みなが集まるホールには、季節に合った飾りつけを行っている。また照明の調整を行い落ち着くように配慮している。温度も猛暑であるが脱水や熱中症の予防に努めている。	純和風づくりの玄関と木の温もりのある居間には、四季折々の手作り作品や日常の暮らしぶりを紹介した写真を華美にならないように配慮して掲示している。居間は、キッチンから入居者の動きや気配が見渡せ、明るく風通しのよい整理整頓された居心地のよい生活空間となっている。ワンフロアのゆったりとした共用スペースで、季節の作品作りやスイカ割などのイベントを楽しんだり、ソファに腰掛け中庭を眺めながら季節の移ろいを感じるなど、入居者の思いの場所でのんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや自由時間には席の配置を変えて楽しく過ごしてもらえるように工夫している。また一人で過ごしたい人には、ソファも置いて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた物や思い出の品物やご家族の写真などあれば各自の部屋においてもらっている。またご家族にもお聞きしてできるだけなじみのある空間の構築に努めている。	居室にはクローゼットやカウンターが設置されテレビを置いたり、椅子を置いて書き物をするなどその方の生活様式に合わせた環境を整えている。また、今まで使用していたベットやタンスを持ち込み安心できる環境作りをしている。趣味で作成したパッチワークや刺し子の作品、家族や友人と取った写真など好みのものを飾って入居者が居心地よく安心して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の必要箇所には手摺の設置、段差や床等に物を置かないよう注意している。また各居室に名札等で分かりやすいようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果【ユニットA】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371501020		
法人名	株式会社 在宅看護センター愛		
事業所名	グループハウス愛(Aユニット)		
所在地	名古屋市名東区八前二丁目1820番地		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371501020-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和5年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念(安全・安楽・安心)をできる限り実践し、利用者本位のサービスを目指している。 ・全ての入居様の健康面に配慮し、安定した健康状態で過ごしていただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>交通の便が良い丘陵地のスーパーや銀行、住宅などが点在する中に事業所が位置している。鉄筋3階建てで、訪問看護ステーションと訪問介護事業所が併設されている。和風造りの門や玄関、木の温もりと落ち着きを感じられる和の室内は、住み心地の良い生活の場となっている。職員は、「安全・安楽・安心」を介護全般の三原則として、入居者が自分らしさや誇りなどを大切にしたい暮らしができるようにそと寄り添う介護を目指し、生活のパートナーとして日々のケアに心がけている。地域の方と一緒に認知症理解の講座を開いたり、地域の様々な資源を利用したりして地域に溶け込んだ事業所として滞っていた事業の再開を検討している。また、日々の散歩や季節の花見、知人や友人との語らい、絵画や書など趣味の作品作り、フラダンスなどのボランティアによる催しなど今までの生活経験や楽しみの継続支援に徐々に心がけ、入居者が主体的になれるように努めている。調理済の食材をユニットごとに盛り付けや一味、一手間の工夫をし手作り感を添えて提供し、皆で美味しくいただき元気の源としている。入居者は、職員に支えられ自分がしてきたことや自分のできることを自分のペースで行い、自分らしくゆったりと過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

【Aユニット】

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全・安楽の理念はスタッフルームに掲示し、意識付けを行い、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染問題により、自粛中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページにて公開を行っている。新型コロナ感染予防の為、講習会などは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の6月、8月に弊社会議室にて運営推進会議の開催、面会方法や災害についての意見や対応等についての話しあった。 ※家族に面会についてのアンケートを実施		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナ感染予防の観点より、殆ど会議や研修への参加は行っていないが、インターネットにて行政からの情報等の収集は行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的な会議により現状及び見直し等、話し合いを行っている。玄関施錠については、ご家族に説明及び了承を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で集まった研修等は 3密の観点より行わず、研修資料の回覧にて啓発を実施しており、職員一人ひとりが穏やかな対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料の回覧により、知識修得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時等に丁寧な説明を行っており、その都度問題があれば説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明は勿論、アンケートをお出ししたり等、できるだけご家族の意見や要望を反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面談にて職員の意見や要望の聞き取りを行っている。また問題等あれば直ぐに管理者等に相談するよう伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務負担の軽減ができる様に職員等より聞き取りを行い、環境調整など努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在新型コロナ感染の為、外部研修への参加は自粛しており、施設内での資料等による研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染問題により、自粛中であり、できる限り外部との接触は避けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	この項目に関しては、職員一人ひとり、しっかりと対応を行っており、その場にいる職員同士で相談して解決に導いたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に管理者及びケアマネが、ご家族から聞き取り、不安や問題点があれば丁寧に説明を行っている。面会時も各職員がご家族に声かけなどして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、必要なサービスの検討を行い、必要があれば直ぐにご家族に相談して、対応を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合った事を手伝ってもらったり、不安や心配事など見られる時は、できるだけ傾聴や寄り添う様にして、助けあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の健康状態等、何か問題がある時には、直ぐに電話をして相談している。また必要性があればアンケートなども行い、より良い関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は施設面会が難しいので、電話やお手紙などでご家族からお聞きしたり、本人に声かけや確認を行って対応を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにみんなでいる時は、できるだけ他の入居者とお話できる機会をもてるよう、橋渡しを行っている。特にレクレーションなどの時は、トラブルもあり、介入するなど対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々ご家族に電話連絡し、最近の状態等をお聞きし、相談に乗ったり、話しをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態(表情、顔色等)を見ながら、声かけや傾聴を行い、本人の意向など把握する様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は勿論、ご家族等からもできる限り昔の情報を収集し、本人が居心地よく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態や食事、排泄等の記録を付け、申し送り等で他の職員とも情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの評価や本人、ご家族から聞き取り及び意見を検討し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録及び申し送りにて情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要性は勿論、可能な限り迅速に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「訪問歯科」「訪問理美容」等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望している訪問診療医を利用してもらい、救急搬送する病院についても希望をお聞きし、対応が出来る様な状態である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時は訪問看護師に連絡し、適切な処置を施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話及び入院時情報連絡表を送り、地域連携室又はMSWと連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも健康状態の対応等についてお伝えをしている。また実際の急変時には早急に主治医、ご家族と連絡を取り、意向や希望に沿った対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新型コロナ感染予防により研修や勉強会は困難であるので、マニュアルや資料により、各自学んでもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年4回実施している。 災害時の飲食物等の備蓄は準備できている。 運営推進会議で災害時の検討も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	体調や状態を観ながら、声かけや傾聴し、丁寧に話しをお聞きするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声おかけを行い、できるだけ本人の思いを聞き取るようしている。発語が困難な方は表情や所作などから、汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足もあり100%とはいかないが、できる限り入居者様の都合を優先し、待たせない様な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や好みをお聞きしたり、把握に努め、納得のいくよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好に合わせて料理を変更している。またできる範囲で配膳や片付けのお手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はチェック票にて確認を行っている。また一人ひとりの嚥下状態や体調により食事形態や量などの調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔にもらっている。問題等があれば訪問歯科受信で対応を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票にてその方の排泄パターンを把握し、時間を決めてトイレ誘導や声かけトイレを促すなどの自立的な支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整、運動実施、マッサージの等を行うが、便秘傾向強い場合は、主治医に相談し服薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限りご希望に沿う様に配慮しているが、職員の勤務状況により難しい場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静養は本人の状態やケアプランに基づいて行っている。全体的に日中は体を活動量を増やす機会を多くする様にしている。また服薬にて調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬カレンダーを活用し、飲み間違いや飲み忘れが無い様に配慮している。問題があれば直ぐに主治医に相談を行い、対応を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の能力により洗濯たみや食器拭き、掃除などを手伝ってもらっている。またレクリエーションも好みや体調等に合わせて行っていたり、楽しく過ごせる様に支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナ感染予防の為、外出を控えている。また7月からは異常な暑さの為、外出は禁止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を失くしたり、どこかにしまい忘れるなど頻繁に問題が起きるので、家族の要望も強く、施設で管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今の所、本人が電話したいとの要望なく、手紙などでのやり取りの支援を行っている(電話はご家族の都合や希望により利用してもらっている)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけ変更する事をレクリエーションの一環として行っている。また物品の整理整頓をし危険なリスクを回避し、清潔な環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様たちが楽しく過ごせる様に、座席の配置を変えたり、レクリエーションに気軽に参加できるように声かけを行っている。また共有空間にはソファを置き自由に寛げる環境調整を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、本人が創作した物、なじみのある置物などを配置し、落ち着ける空間になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の必要個所には手摺の設置を行っている。また各部屋には分かりやすい様に表示をしている。足元に物や出っ張りが無い様に安全な環境に努めている。		